

「西宮に生まれてよかった」そう言ってもらえる為に。

5

「子育ての街・西宮」で必要な子育て・子育ち・ママ環境

4

このチラシは全部で4種類作成していましたが、こちらは特別号です。



はまぐち 仁士 42歳・新人 無所属

<プロフィール>

ひとし

- ◆1972年6月西宮市生まれ。小学5年生の息子と1歳の娘の父。
- ◆市立大社幼稚園、市立苦楽園小学校、市立苦楽園中学校、県立甲山高等学校卒業。
- ◆神戸ベイシェラトンのオープニングスタッフ等を経て1998年に松原町にて「Cafe&Bar savro (Bar三郎)」、2000年に西宮浜にて「Trattoria & Cafe COMODO」をオープン。
- ◆2014年西宮市長選挙で今村岳司スタッフとして活動後、私設秘書に就任。2014年9月末で秘書業務とすべての店舗を撤退して政治活動を開始。

もっとお母さんの声聞かせて下さい！お気軽にご連絡を！

この活動を通じてたくさんの方から反響を頂いております。

そしてもっとたくさんの方々とお話がしたい。そんな思いが日々強くなっております。

「大好きな街だから」「こどもや孫の未来の為に」「安心して老後を暮らせる街にしたい」

皆さんのそんな西宮への思いを是非お聞かせください。

お問い合わせ先: TEL:090-8167-8136 Mail:h.hamaguchi0602@gmail.com



<http://goo.gl/pEHp1>



<http://www.h-hamaguchi.com/>

はまぐち仁士

検索

父親の立場からこどもの「子育て」・「子育て」・「ママ環境」を考えます

子育て環境

「子育て環境」において児童館の施設がとても少ないです。児童館の重要性は一歳半のこどもを持つ私も実感しています。家では出来ない多くの遊びや他のこどもと接する機会、そしてお母さん達の情報交換。児童館は子育ての街にはなくてはならない施設です。しかしこの広い西宮にはたった九箇所しかありません。公民館や市民館などで移動児童館も開催していますが、月一回ではあまりにも少なすぎます。この環境では地域によって子育て環境に格差が生まれてしまいます。しかし不足した地域すべてに市が施設を作ることは財政的に難しいと考えます。まずは現状行われている移動児童館の強化を図り環境改善を行います。さらに民間企業と協力して児童館の役割を担える施設の展開を進めていきます。



お母さんにとって重要な児童館。西宮ではまだまだ施設の数で十分足りていません。

次に青年少年愛護協議会（青愛協）の委託で行っている放課後こども教室について。地域によって開催回数や内容に大きな格差が生じています。年に一桁台しか実施できていない校区が四ヶ所もあることは平等にこどもたちの育成を行う趣旨に相反します。実施が困難な校区に対して現状の問題点を明確にして支援を行って強化を図ります。

また小学校教師の仕事環境が悪く、こどもたちの指導にも影響を及ぼしています。要因として事務作業が多いこと、そして保護者の必要以上の指摘に対応していることが上げられます。先生の事務負担を軽減し、保護者との信頼関係を構築するための活動を行うことでこどもたちの学習環境を守ります。

子育て環境



地域のこどもたちに環境解放を行う関西学院聖和幼稚園。いきいきと遊ぶ小学生たち。

「子育て環境」において、西宮市が実施したこども・子育て支援事業計画作成に伴うアンケートによると「こどもの放課後の過ごし方について望むことは？」という質問に対して「公園で自由に遊ばせたい」という回答が七割以上でした。この結果から西宮の子育て環境で公園問題はとても重要であることが理解できます。こうした結果を踏まえ、こどもが安心して遊ぶことが可能な大型公園を設ける取り組みや、現状西宮市にあるすべての公園を調査を行い地域のこどもたちの利用状況などを確認しながら地域に見合った公園利用の改善を行って参ります。またいくつかの幼稚園が園庭開放を行っており、地域のこどもたちの安全な遊び場として活用されています。園庭開放の活性を行うことで、こどもたちの遊び場を確保できうることからこの活動の支援を行うことを提案していきます。

こどもの食育はとても大切です。しかし学校給食は残念ながらその役目を果たしていません。確かに栄養には細かい配慮を行っているかもしれませんが、肝心の「食の価値観や楽しみ」を伝えていくことこそ学校で給食を提供する役目ではない

かと考えます。その為に必要な環境を整備するために民間委託を行い、また「給食材料入札制度」を廃止して品評制を導入し、同予算で質の高い食材をこどもたちに提供するなどしてこどもたちの食の意識を育てます。

ママ環境

最後に「ママの環境」において、まず子育てに対する理解が不足していることが大きな問題となっています。そして多くのお母さんたちが悩み苦しんでいる現状を解決しなくてはなりません。子育ての大変さを知って頂くための啓発活動を行い「お母さんが社会に合わせる」のではなく「社会がお母さんに合わせる」環境を作ります。そしてもっとも身近なお父さんの協力はとても重要です。有効な父子手帳を使ってお父さんの子育て参加を支援します。

お母さんの働く環境について「働きたい人」「働かざるを得ない人」「子育てに従事したい人」など様々です。特に「働かざるを得ない」お母さんに関して本当は保育所などに預けるのではなく家に居ながら家計の補助につながる在宅ワーク支援などを行うことで、保育所の定員にゆとりが生まれ「働きたい」お母さんの環境改善にもつながります。事情に合わせて細かく対応を行うことで働くお母さんの環境改善に努めます。

「こどもを産む」大役を終えたお母さんの出産後のケアはとても重要です。核家族化が進み、特に多子世帯や通勤族で親の支援を受けられないお母さんは無理をしがちです。子育ての街として産後ドゥーラ（出産前後の女性を支援する専門家）環境の整備に取り組みます。



和歌山県父子手帳。雑誌のようなデザインで読んで頂けるような工夫を取り入れている。

今後「少子化」が進み、こどもの数が減ってくる世の中で、こどもの環境はますます合理化される恐れがあります。子育て・子育ての環境は落とすことなく質を保たなければなりません。こどもの未来の為に全力で取り組んで参ります。